

①さぎり消ゆる みなとえの

舟に白し 朝の霜

ただ水鳥の 声はして
いまだ覺めず 岸の家

②からす鳴きて 木に高く

人は畠に 麦を踏む

げに小春日の のどけしや
かえり咲きの 花も見ゆ